

「大立山まつり」初開催／米ホテル大手進出へ

2016年も残すところ、あとわずか。いろいろとあった県内の1年間を、関係者の言葉や、取材記者のコラムで振り返る(肩書、年齢などは当時)。

3月31日に行われた選抜高校野球決勝。智弁学園は高松商(香川)に2-1でサヨナラ勝ちし、甲子園初優勝を果たした。岡沢智基主将が「部員33人全員でつかんだ優勝」と胸を張った言葉に、その強さを見た。

近年、智弁学園には中心選手がいた。2014年秋のドラフトで読売巨人軍に1位指名された岡本和真選手と、翌秋の東京ヤクルトスワローズ2位指名の広岡大志選手。2年連続プロ野球選手を出したが、甲子園の頂点には立てなかった。一方、今年は飛び抜けた選手がいなかった。決して前評判は高くなかったが、逆に強い結束力を生んだ。

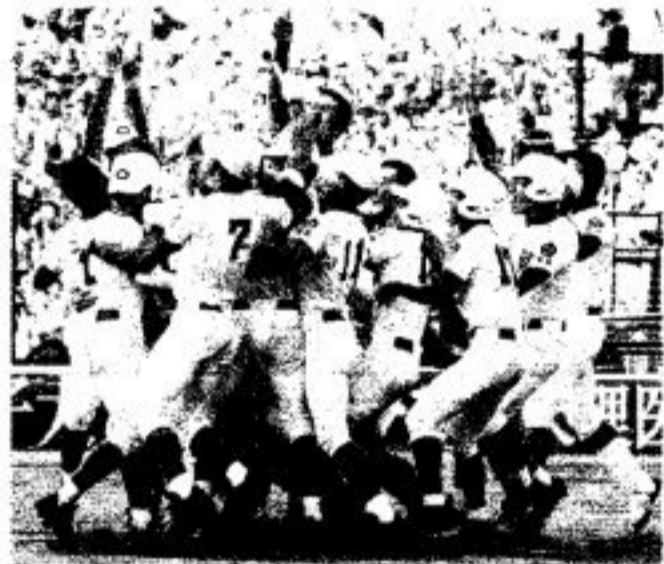
岡沢主将の発案で、練習やミーティングでは学年の垣根を越えて指摘し合い、練習が終われば冗談を言ってふざけ合う。学年に関係なく、本当に仲が良かった。そんな雰囲気が多くの人を躍動させた。下級生2人が先制打や本塁打を放つなど伸び伸びプレーすれ

智弁 全員野球で選抜初V

ば、負けじと上級生がサヨナラ打を放つ。1人で5試合を投げ抜いた村上頌樹投手という柱はいたが、打線はどこからでも得点できる勝負強さが光った。「データ班」と呼ばれるメンバー外の部員たちの緻密な分析も、選手の活躍を後押し。まさに全員でつかんだ優勝だった。

誰かがやるはずと他人任せにせず、一人ひとりがチームのためにできることを精いっぱいやる。スター不在で選抜覇者となった姿は、甲子園出場が目標の公立校にも、優勝を目指す強豪校にも、多くの勇気を与えたに違いない。

(小沢亮介)



選抜初優勝を決め、甲子園のマウンドで喜び合う智弁学園ナイン(3月31日)

◇1月◇

8日 香芝市で昨年7月に小学6年女児を連れ去り、未成年者略取罪などに問われた無職伊藤優被告に、地裁は懲役4年(求刑・懲役8年)の判決。柴田厚司裁判長は「被害者や家族、社会に与えた不安は大きいが、反省しており、求刑は重い」

26日 道交法違反(酒気帯び運転)容疑で逮捕された前町長の辞職に伴う田原本町長選が告示され、無所属新人で行政書士の森章浩氏が無投票で初当選。森氏は「子育てしやすい町づくりに取り組みたい」

29日 四天王像を載せた山車「大立山」(高さ約7m)4台を巡行させる「奈良大立山まつり」が奈良市の平城宮跡で初開催。5日間で5万1000人が来場(県発表)。3月に県議会会派「なら維新の会」(現日本維新の会)は関係者を含めても約2万6000人とする独自の調査結果を公表し、「来場者を水増しし、虚偽の報告でイベントは成功だと話している」。県は何度も出入りした人も重複して数えたと説明。

◇2月◇

8日 東大寺(奈良市)の新たな別当に、狭川普文(さかかわふみん)師を選出。狭川師は「他の僧侶や地域の皆さんの知恵を頂き、と

もに歩んでいく」。5月1日付で就任。

10日 県いじめ防止基本方針の素案を検討協議会が大筋了承。2013年施行の「いじめ防止対策推進法」で策定を求められ、47都道府県で唯一未策定だった。担当者は「遅れたことは申し訳ないが、実態に即した方針にすることが大事」

22日 県は、県内の国宝の仏像などを英・ロンドンの大英博物館や仏・パリのギメ東洋美術館で展示する計画を公表。仏像に詳しい橋爪紳也・大阪府立大教授は「欧州で仏教や東洋思想への関心が高まるきっかけになるのでは」

◇3月◇

1日 唐招提寺(奈良市)の新長老に、西山明彦(みよかげん)師を選出。西山師は「昔の法要のあり方を調べ、参拝者も参加できるように形で復興させることを考えたい」。4月1日付で就任。

3日 奈良市の奈良署跡の県有地に、2020年春国内で初めて米ホテル大手マリオート・インターナショナルの最高級ブランド「JWマリオート・ホテル&リゾート」の開業が決定。荒井知事は「一流ホテルの開業でブランド化が図られ、世界的な観光都市になれる」

8日 橿原神宮(橿原市)で、39年ぶりに修復された本殿にご神体を戻す「遷座の儀」が営まれる。久保田昌孝宮司は「すがすがしい本殿のもとで、参拝者を本のはじまりの地の橿原神宮にお迎えしたい」

10日 昨年12月に生駒市の県立高の男子生徒が校舎から転落して死亡した問題を調査する「県立学校いじめ問題調査委員会」(現県いじめ対策委員会)の初会合。田辺美紀委員長は「事実関係を解明し、いじめがあったかどうかの考察に全力で取り組みたい」

23日 春日大社(奈良市)本殿(4棟)の前に置かれていた獅子・狛犬(こまいぬ)計8体が、鎌倉初期の室町時代頃の制作と判明。20年に1度の大改修・式年造替(ぞうたい)に伴う初調査で、専門家は「古い時代の獅子・狛犬が一挙に確認される例は珍しい」

25日 奈良市議会が、市提案の2016年度一般会計当初予算案に対し、火葬場「新斎苑(さいえん)」の整備事業費を減額した修正案を可決。仲川元庸市長が審議をやり直す「再議」を請求も、30日に再可決。仲川市長は「住民合意を一日も早く得ることを最優先し、必要な予算は議会に諮っていききたい」。新斎苑の関連費用を盛り込んだ補正予算案は12月議会で賛成多数で可決された。